



Title	腎症候性出血熱（HFRS）ウィルス糖タンパクの抗原解析
Author(s)	Jose, Ribeiro Dantas Filho
Citation	大阪大学, 1986, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/35546">https://hdl.handle.net/11094/35546</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、<a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">大阪大学の博士論文について</a>をご参照ください。

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ジョゼ リベイロ ダンタス フィーリョ  
氏名・(本籍) JOSE RIBEIRO DANTAS FILHO

学位の種類 医 学 博 士

学位記番号 第 7484 号

学位授与の日付 昭和 61 年 12 月 4 日

学位授与の要件 学位規則第 5 条第 2 項該当

学位論文題目 腎症候性出血熱 (HFRS) ウィルス糖タンパクの抗原解析

(主査) 教授 高橋 理明  
(副査) 教授 加藤 四郎 教授 山之内孝尚

### 論文内容の要旨

#### [目的]

HFRSは我が国において動物実験室で1970年代より流行したウイル病で類似の疾患はアジア大陸、スカンジナビアと広く見いだされている。その原因ウイルスは1976年に韓国で最初に分離されて以来、成果各地で類似ウイルスが分離されている。これらのHFRSウイルスの表面には、G1, G2の2種の糖タンパクが存在することが判明した。

そこでその生物学的機能を明らかにするため、これらの糖タンパクに対するさまざまなモノクローナル抗体を採取し、その生物活性を測定した。また、これらのモノクローナル抗体を用いて関連ウイルスとの抗原上の差異も検討した。

#### [方法]

##### 1. Hybridomaの作製

BALB/CマウスにHFRSウイルスB-1株をアジュバントと共に腹腔内に注射し、1ヶ月後に抗原のみを注射した。その3日後、Spleen細胞を採取し、マウスマイエローマ細胞のSP2を用い、細胞融合させHybridomaを作製した。以後Hybridomaのクローンは2回クローニングしマウスの腹腔内注射し腹水を作製した。

##### 2. ウィルス及び細胞

用いたウィルスは微研でラットより分離したB-1株、韓国で分離されたHantanウイルス(HV)、米国で分離されたProspect Hill(PH)ウイルス、スエーデンで分離されたHallnas(HS)ウイルスである。細胞はVero E6を用いた。

### 3. 感染細胞のラベリング及び免疫電気泳動法

Vero E 6 細胞にウイルスを感染させ 1 週後に [<sup>35</sup>S]メチオニンまたは [<sup>3</sup>H]マンノースでラベルした。その後ラベルされた感染細胞を溶解し、モノクローナル抗体と反応させた後に SDS-Polyacrylamide gel electrophoresis (PAGE) にてウイルス特異タンパクを解析した。

### 4. 血清反応

蛍光抗体 (1 F) 法による抗体価測定は HV, B-1, PH, HS 株感染細胞を用いて蛍光抗体間接法より行った。

中和テストは 50-100 focus forming unit のウイルス抗原と抗体を 37°C 1 時間反応させた後、96穴マイクロプレートの Vero E 6 に接種し、4-5 日目に peroxidase-anti-peroxidase (PAP) 法にて focus の 90% 減少で測定した。赤血球凝集抑制 (HI) 法は奥野らの方法にて行った。

#### [成績]

1. B-1 株に対するモノクローナル抗体を作製した結果、そのうち 11 種のものが糖タンパクに対するものであった。ウイルス感染細胞の蛍光抗体法による染色を行うと細胞質にパッチ状の蛍光がすべての抗体を用いて見いだされた。
2. これらの 11 種のモノクローナル抗体をラベルされた感染細胞 lysate と免疫沈降させ SDS-PAGE 法にて分析を行うと、その中の 2 種のクローナルは 74K の糖タンパクと 8 種は 57K の糖タンパクと反応したが残りの 1 種 (B-12) はどのタンパクとも反応しなかった。
3. これらのクローナルの中和能、HI 能を測定した結果、74K タンパクと反応した 2 クローナルは中和能を有していたが、その抗体価は低く、その中の 1 つは中程度の HI 能を有していた。57K と反応する 8 つのクローナルの中 2 クローナルは非常に高い HI 能がありその中の 1 つは中程度の中和能を有していた。又、3 つのクローナルは中程度の HI 能を有していたが中和能は見いだされなかった。残りの 3 クローナルは、HI, 中和能共に低いか有していないかった。
4. これらのクローナルの B-1 株抗原と共に他の 3 種の抗原との反応差異を 1 F 及び HI 法にて比較した。その結果、74K タンパクと反応する 2 クローナルは 1 F, HI 法共に株特異性が強かった。次に 57K と反応するクローナルのうち HI 能の非常に高いクローナルはヘテロの株とも同程度に反応したが HI 能の中程度のものは株特異性が強かった。中和能を有する B-12 クローナルは株特異的に反応した。

#### [総括]

一般に bunya ウィルスには G1 及び G2 の 2 種の糖タンパクが存在するが、HFRS ウィルスにも同様の糖タンパクが存在することがモノクローナル抗体を用いて証明された。又、G1, G2 タンパク共に中和抗原となり G2 タンパクは HA 能を有している。しかし非常に高い中和能を有する B-12 クローナルが何れのタンパクと反応しているかが確認されないので主たる中和抗原は現在のところ不明である。又、世界各地で分離された代表的な 4 種のウィルスは共通抗原は存在するがかなりの相違する部位があることが証明された。

## 論文の審査結果の要旨

本論文ではモノクローナル抗体を作製してHFRSウイルスの糖蛋白を調べ次の結果を得ている。

1. HFRSウイルスには分子量74,000 (G1) と57,000 (G2) の2種類の糖蛋白が見出される。
2. G1, G2タンパクは共に中和活性を有しG2タンパクはHA活性も有している。
3. 中和活性部位とHA活性部位は異なるエピトープに存在する。
4. 世界各地で分離された数株の中和及びHA活性についてしらべた結果、株共通部分と株特異部分が存在する。

以上の結果は本ウイルスの疫学及び予防研究に貢献するところが大きいと考えられる。